

奨励賞・U40 建築賞

住宅／東京都三鷹市

INOKASHIRA 2.0

構造	木造
階数	地上2階・地下1階
敷地面積	106.52㎡
建築面積	41.04㎡
延べ面積	83.66㎡
竣工年	令和4年



設計担当者 中山佳子

(株) 中山佳子設計企画、東京建築士会



アプローチ・南東側外観

接道面より斜め向き立面とし、隣家との見合いを避け来訪者をかしこまらずに迎え入れる構えとした。隣家同意の上、境界壁は低いピンコロ石積みとし、一体的なランドスケープを協創



上) 周辺環境に接続する、開放的なダイニング(さんかくコモン)
斜めに振った東向き開口部より、降り注ぐ朝陽や北側隣地の南庭借景を内に取り込む

下) ポーチ(さんかくコモン)より、内部空間をみる。
内外の床をモルタル仕上げとし、幅4.6mの木製引戸で仕切ることで一体的な使い方を想定

選 評

井の頭恩賜公園に隣接する地域はかつて別荘地であったこともあり、大きな区画の住宅が残っている。敷地は、この区画を世代が代わり3分割した建蔽率40%の北東向き旗竿敷地である。

四方を隣家に囲まれた30坪余りの敷地で、開放的な住空間を上手く創っている。一つの要因は、アプローチに対して迎えるように配したL字型のボリュームと、ポーチ、ダイニング、ルーフトラスからなる設計者が「さんかくコモン」と呼ぶスペースの配置構成にある。「さんかくコモン」は来訪者のアプローチに対して50度振って構えた大開口を持つ。もう一つの要因は、隣地への対応である。設計者の意図できた隣地条件ではないが、北側

隣地は南側に大きな庭があり、低い塀越しにその庭の植栽を借景し視線遮蔽になっている。東側隣地とは、隣家のこの面に有効な開口がないこともあり、境界に塀を設けず足元程度の低い石積みとし隣家と植栽を協創している。

内部は「さんかくコモン」を核に、寝室、書斎、リビング、洗面浴室とステップアップし、各スペース間とアプローチへは見通しがきき、プライバシーを守りながら程よくまちに開いている。

快適に住まうから一步踏み出し、地域の区画細分化の流れの中で開いた住環境を触発し、住まうまちへの愛着を作り出すことを目指した作品である。

(菅 順二)